

平成19年食中毒発生状況の概要について

平成20年8月
厚生労働省食品安全部

1. 発生状況（事件数、患者数、死者数）

平成19年に国内で発生した食中毒事件数は1,289件（対前年－202件）、患者数33,477件（対前年－5,549人）、死者数7人（対前年＋1人）であった。

また、患者500人以上の食中毒は5件発生した（前年は6件）。

2. 月別発生状況

食中毒事件の発生が最も多かった月は、9月の149件（11.6%）で、次いで8月の142件（11.0%）、10月の135件（10.5%）の順であり、8～10月に事件が集中しており、この3ヶ月の事件数は426件と年間発生件数の33.0%を占めていた。患者数では、1月と12月が4,995人（14.9%）と最も多く、冬季に患者の発生が集中した。また、夏季においても9月の4,660人、7月の2,287人と多数の患者が発生した。

3. 病因物質別発生状況

- 病因物質の判明したものは、事件数1,211件（93.9%）、患者数32,182人（96.1%）であった。病因物質別の事件数は、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（416件）、ノロウイルス（344件）、サルモネラ属菌（126件）、植物性自然毒（74件）の順で多かった。病因物質別の患者数は、ノロウイルス（18,520人）、サルモネラ属菌（3,603人）、ウェルシュ菌（2,772人）、カンピロバクター・ジェジュニ／コリ（2,396人）の順で多かった。
- 腸管出血性大腸菌による食中毒は、事件数25件、患者数928名で、いずれも血清型O157によるものであった。
- 死者が発生した食中毒事件の病因物質は、植物性自然毒（死者4人、内きのこ2人、イヌサフラン1人、グロリオサの球根1人）、動物性自然毒（ふぐ毒、死者3人）であった。
- 病因物質別発生状況の年次別推移では、腸炎ビブリオ及びサルモネラ属菌は、事件数、患者数ともに、平成10、11年をピークとして減少傾向にある。近年、カンピロバクターによる食中毒が増加傾向にあり、細菌による食中毒では最も多く発生している。
- また、平成9年に病因物質としてノロウイルス（当初は小型球形ウイルス）を追加して以降、ノロウイルスを原因とする食中毒事件が事件数、患者数ともに増加傾向にあり、平成19年は、前年と比べて事件数、患者数ともに減少したものの、引き続き多く発生している。

4. 原因食品・施設別発生状況

- 原因食品の判明したものは、事件数936件(72.6%)、患者数30,632人(91.5%)であった。
- 原因食品別の事件数は、複合調理食品(95件)、肉類及びその加工品(83件)、野菜及びその加工品(78件)、魚介類(68件)の順で多かった。〔「その他」を除く。〕
- 原因食品別の患者数は、複合調理食品(3,939人)、野菜及びその加工品(1,242人)、魚介類加工品(1,080人)、菓子類(984人)の順で多かった。〔「その他」を除く。〕
- 原因施設の判明したものは、事件数1,003件(77.8%)、患者数32,666人(97.6%)であった。
- 原因施設別の事件数は、飲食店(582件)、家庭(128件)、旅館(103件)の順で多かった。
- 原因施設別の患者数は、飲食店(13,625人)、仕出屋(6,254人)、旅館(5,396人)の順で多かった。
- 死者が発生した食中毒事件の原因施設は、家庭(死者6人)及びその他(死者1人)であった。

5. その他

平成19年食中毒発生状況の詳細等については、厚生労働省食品安全部ホームページ「食中毒に関する情報」(<http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/index.html>)で公開している。

表 1 年次別食中毒発生状況

年次	事件数	患者数	死者数
56	1,108	30,027	13
元年	927	36,479	10
6	830	35,735	2
7	699	26,325	5
8	1,217	46,327	15
9	1,960	39,989	8
10	3,010	46,179	9
11	2,697	35,214	7
12	2,247	43,307	4
13	1,928	25,862	4
14	1,850	27,629	18
15	1,585	29,355	6
16	1,666	28,175	5
17	1,545	27,019	7
18	1,491	39,026	6
19	1,289	33,477	7

年次	病因物質	事件数	患者数	死者数
15	サルモネラ属菌	350	6,517	0
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	491	2,642	0
	腸炎ビブリオ	108	1,342	0
	小型球形ウイルス	278	10,603	0
	その他・不明	358	8,251	6
16	サルモネラ属菌	225	3,788	2
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	558	2,485	0
	腸炎ビブリオ	205	2,773	0
	ノロウイルス	277	12,537	0
	その他・不明	401	6,592	3
17	サルモネラ属菌	144	3,700	1
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	645	3,439	0
	腸炎ビブリオ	113	2,301	0
	ノロウイルス	274	8,727	0
	その他・不明	369	8,852	6
18	サルモネラ属菌	124	2,053	1
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	416	2,297	0
	腸炎ビブリオ	71	1,236	0
	ノロウイルス	499	27,616	0
	その他・不明	381	5,824	5
19	サルモネラ属菌	126	3,603	0
	カンピロバクター・ジェジュニ/コリ	416	2,396	0
	腸炎ビブリオ	42	1,278	0
	ノロウイルス	344	18,520	0
	その他・不明	361	7,680	7

表2 平成19年 死者が発生した食中毒事例

NO.	原因施設 都道府県	発病年月日	原因施設 種別	原因食品名	原因食品種別	病因物質種別	患者総数	死者総数	摂食者総数	性別、年齢
1	長崎県 (長崎市)	2007/1/5	家庭	ふぐ	魚介類-ふぐ	自然毒-動物 性自然毒	1	1	1	男、60～69歳
2	新潟県	2007/4/14	家庭	イヌサフラン	その他-食品特定	自然毒-植物 性自然毒	2	1	2	男、50～59歳
3	愛知県	2007/7/20	家庭	きのこ	野菜及びその加 工品-きのこ類	自然毒-植物 性自然毒	1	1	1	女、70歳～
4	長崎県	2007/8/26	家庭	ウミスズメ(ハコフグ 科)推定	魚介類-ふぐ	自然毒-動物 性自然毒	2	1	4	男、40～49歳
5	大阪府 (高槻市)	2007/9/2	その他	きのこの天ぷら	野菜及びその加 工品-きのこ類	自然毒-植物 性自然毒	6	1	6	男、60～69歳
6	静岡県	2007/10/21	家庭	グロリオサの球根	その他-食品特定	自然毒-植物 性自然毒	1	1	1	男、50～59歳
7	広島県	2007/12/30	家庭	フグ(種類不明)の内 臓とカレイの煮付け	魚介類-ふぐ	自然毒-動物 性自然毒	1	1	2	男、60～69歳

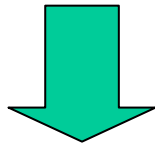
表3 平成19年 月別食中毒発生状況

[illegible]

食中毒発生時の行政対応について

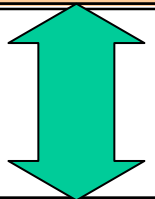
食中毒

- 医師、患者、営業者等からの連絡
- 保健所の職員による探知



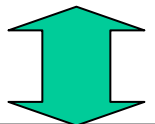
保健所

- 保健所による調査
 - ・ 事件の発生規模等の調査、把握
 - ・ 調査…喫食状況調査、施設への立入調査
調理従事者への調査、関係食品、患者検体等の試験検査
- 保健所による対策
 - ・ 被害者拡大防止対策…営業の禁停止
原因食品、食材の回収命令
 - ・ 再発防止対策…原因施設に対する衛生状況の改善指導
営業者、消費者等への情報提供
各自治体への情報提供
- 保健所から都道府県等への報告



都道府県等

- 都道府県等から厚生労働省への報告



厚生労働省

- 大規模、広域食中毒発生の際には、都道府県等に調査を要請

関係部局・省庁

連携